

### NPOインターン 半年間の総まとめ

今月のたかはら日和は、約半年間にわたって行われたインターンのまとめ回です。5人のインターン生の、インターン先での日常や、具体的な物語、団体の方からの言葉をお届けします。

また、**3月14日には、インターンの活動報告会が行われます。**そこでは、各インターン生が取り組んだ内容など、より詳しくお話が聞けます！ぜひ、足をお運びください。

発行日：令和二年三月十一日（水）  
発行所：とちぎコミュニティ基金

### とちぎ、 普段の活動って・・・？

十二月号はインターン生紹介。一月号はインターン生からみた非営利団体のリアルなどをお伝えしてきました。でも、肝心な、「普段、何やってるの？」はまだでした！  
各インターン先での「普段の活動」「具体的なストーリー・エピソード」「感想」をお伝えしていきます！

### サシバの里自然学校／桂野葵（かつらのおおい）

### ◎里山の中で食べるご飯は美味しい！

夏を中心に開催される「こどもキャンプ」では、みんなで力を合わせてご飯を作ります。釜で美味しい白米を炊くために火起こしから！ふっくら炊き上げたお米に、一生懸命切った野菜がゴロゴロ入ったカレーと一緒にいただきます。子どもたちはもりもり食べて…、大きいお姉さんお兄さんも、もぐもぐもぐ…(笑)。学生ボランティアもついつい食べすぎちゃうほど、みんなで作ったご飯は美味しいのです。

### 普段の活動

～サシバの里自然学校の日～ 冬編

- 9時 活動開始
  - 看板犬のはなちゃんにご挨拶
  - 軍手、長靴、ロープなどを準備
  - 下草刈りをしに裏山へ
  - 草刈り機で篠竹を刈り取る
- ↓
- 束にして一箇所に集める
- ↓
- 軽トラックで田んぼに運ぶ
- ↓
- ひたすら繰り返しつつ、ツルで遊ぶ
- 12時 日光が気持ちいいえんがわで昼食
- 13時 活動再開
  - だんだん裏山に光が差してきたぞ
- 15時 校長の愛娘ちゃんと〇〇ごっこで遊ぶ  
綺麗な夕日を見てもう一息！
- 16時 活動終了
  - 活動後にかじるみかん
  - 果汁が体に染み渡る、最高……

もちろん、夢中で生き物を探したり、田んぼでたくさん駆け回って、お腹もペコペコに空かせるのも美味しさの秘密です。これぞ里山飯！



### 6ヶ月の活動を通しての感想

（インターン生）里山でたくさんの人に出会いました。元気な子どもたちとお母さん、お父さん、地元農家の方々、学生ボランティア：地域のみんなが集まる、人の温かさを感じられる、そんな場所でした。サシバの里自然学校のみなさま半年間本当にありがとうございました！



（団体から）サシバの住み良い元気な里山を作るために、地味だけど大切な森を守る保全作業。想いを人々に伝える教育活動。その両輪を経験してもらいました。慣れないことも多かったと思いますが前向きに取り組む姿が印象的でした。町民祭で地元のおばちゃんに竹けん玉をすすめるアグレッシブさはむしろ見習いたいくらいでしたよ。

サシバの里自然学校長 遠藤 隼さん

### 社会福祉法人とちぎYMCA 子どもの居場所アットホームきよはら／稲川夕梨（いながわゆうり）、大山春香（おおやまはるか）

### 普段の活動

アットホームきよはらでは、放課後の時間帯に子どもたちが集まり、6時のご飯の時間まで遊んだりお風呂に入った後、6時のご飯の時間まで遊んだり子どもたちも手伝いながら、毎回スタッフの方が美味しいものを用意していただきます。ご飯が終わると7時の帰る時間まで遊んで過ごします。ボール遊びや鬼ごっこ、人狼などの遊びが子どもたちに人気です。何げない時間の中にある、多くの人が当たり前だと思ふ幸せを届けることを目的に、私たちは子どもたちと一緒に遊んだり、ご飯を食べたり、おしゃべりしたりと楽しい時間を共有することを大切に毎回の活動に参加していました。子どもたちとたくさん話したり、触れ合ったりして交流を深めることで、仲良くなり一緒に過ごす時間が楽しくなります。

### ◎少食とは??

ご飯の時間になると、「私少食だから」と言う子がいます。でもその子は、いつもおかわりして結局たくさん食べます。私はその度に面白いなと思いつつ一緒にご飯を食べています。

### ◎聖徳太子になりたい

子どもたち4人くらいから同時に話しかけられる時があるのですが、もちろん全員分聞き取るのは難しいです。聞き取れた話から返事をしていると、だいたい「私の話も聞いて！」と他の子から言われるので聖徳太子になりたいと思つていきます。



### 6ヶ月の活動を通しての感想

（インターン生）アットホームきよはらの子どもたちはとても可愛く、会える日を毎週楽しみにしていました。インターンが終わると思うと寂しいです。半年間で多くのことを学びました。私はまだ明確な将来像がありませんが、この経験は必ず将来に繋がると思っています。貴重な機会を提供して頂き感謝しています。 大山春香

アットホームきよはらは、子どもたちだけでなく私の居場所にもなっていました。インターンシップとしての活動は、3月をもって終わってしまいましたが、ここで出会った子どもたちとはこれから何らかの形で関わりを持てたら嬉しいです。多くの学びを得る

ことができ、この経験ができたことを感謝いたします。 稲川夕梨

(団体から)人が生きていく時に何が大切か、自分は何者か、自分には何が出来るのかなどと考える人は、新しい体験をするとそこに小さな光を必ず見出すことが出来ます。インターンの経験もその一つ。若者に希望を感じます。

とちぎYMCA福祉会  
アットホームきよはら 管理者 山口亮二さん

### 一般社団法人えんがお／會田 未来(あいたはるか)

#### 普段の活動

週二日、朝十時から始まり、夕方まで色々なことをします。生活支援に同行する日もあれば、今回のインターンで担当している「えほん図書館プロジェクト」を進めたり、お茶飲み場である「みんなの家」の内装に少し工夫を施したり、その他、えんがおが展開している事業等のサポートや体験などをしたり。その日によって毎回活動内容は異なります。ただ、どの日も共通しているのは、「自ら考えて動くこと」。代表からは時々やってほしいことが伝えられますが、基本は、自由にやってみてね！スタイルです。それ故に難しいところもありますが、だからこそ面白さがあり、クリエイティブな活動が出来ていると思います！

#### お気ばあちゃんのお気に入り



生活支援先の方から、お掃除のご指名を頂けるようになったり、はるちゃんが居ると明るくていい！、よく考えたね、いいわって褒めてもらえたり、そんな嬉しい瞬間が増えました。

#### ◎どっちが支援されている側?!

広いお庭の大規模草取りがあったのですが、草取りに向かったのは三人組のおばあちゃん達。

学生の私達に、がっつり指示を出して、草取りの仕方を指導して、アクティブ過ぎてすごかったです。おかげで、草取りの技術を習得しました(笑)。

#### ◎何気ない毎日が実は一番尊いのは。

「みんなの家」に入れば、いつもおじいちゃん、おばあちゃんがいる、他愛も無い話をしていて、若者がくればにこにこ楽しそうに話して。私がインターンを通して工夫を凝らしたことなど褒めてくれて。イベントがあれば、色々な世代の人がごちゃ混ぜに触れ合っていて、笑顔が生まれて。そんな景色が多分、当たり前のようにまだ当たり前にはなっていない、でも尊くて大切なんだな、いつも思います。

#### 6ヶ月の活動を通しての感想

(インターン生)インターンを通して、より深くえんがおと関わることができました。一つのプロジェクトを担ったり、自ら考えてアイデアを提示し実行したり、アクティブに活動できました。その反面、活動の難しさや、責任感、不安などを抱くこともありました。でも、基本毎日楽しくて、毎日誰かの笑顔が見られること、人の役に立っている実感を得られること、多世代が関わり合う景色づくりに少しだけ関わることがとても貴重でした。沢山の経験をさせてくださった「えんがお」の皆さんに感謝しています。

(団体から)今回の補助金を活用して良かった点は大きく二つです。

①学生と関わっていく上で「お金をいただいている」という認識のもと、普通のインターン受け入れよりもさらに踏み込んでかかわることができた。

②消耗品費などの支出に補助金を活用することで、学生が自分でプロジェクトを開発・準備して実施する流れ全てを任せることができた。結果、様々な課題



に対して主体的に取り組み、言われたことをこなすだけではなく、自ら課題を発掘して解決策を団体側に提示し、実行するまでになりました。

半年間を通じて、意欲的な一学生が、「社会を変えたい人材」になる過程を見ることができました。熱心に関わってくれた学生の會田さんと、この仕組みを作ってくれた事務局の方・支援者の方に感謝いたします。

一般社団法人えんがお代表理事 濱野将行さん

### たかねざわぼかぼか食堂／岡浜 陸(おかはまりく)

#### 普段の活動

たかねざわぼかぼか食堂では、老若男女みんなが自然と集まってくるような食堂を、というコンセプトで活動しています。スタッフの方から寄付していただいた食材などを使い、様々なアイデアのもと献立を考えて提供しています。自分は主に食堂の配膳スタッフ、スタッフの方に代わり子どもたちと楽しく遊んだりしています。食堂での食事は本当にどれもおいしくて、毎回それが楽しみで行っているところもあるかもしれません。子どもたちでだけではなく、おじいちゃんおばあちゃんも来てくださるので、世代ごちゃまぜで食卓を囲んでいるイメージです。

#### ◎自分なりの伝え方

やはり子ども相手なので時には叱らなくてはいいけないこともあります。ですが人の子どもという点からどこまで言っているのか、と、考えることは多々あります。そんな中で考えた結果、自分には自分なりの伝え方があると思う、本気で叱るというより、自分のキャラクターでちょっとふざけた感じで伝えたり、やさし口調で、何がどう危ないからそれはしてはいけないと、伝えることにしました。やはり本気で怒っていないと、子どもたちは感じるのでしょうか、それでも心のどこかに記憶として残されて、あ、あいつこんなこと言っていたな！程度にわかっていてくれるといいかなど考えました。

#### 6ヶ月の活動を通しての感想

(インターン生)やっぱり子どもはいい意味で難しい、けれどその何倍も楽しい！子どもなりに考えて行動しているし、発言しているし。日常では味わうことのできない貴重な体験、この経験は社会に出ても役に立つことだと思えます。

(団体から)食堂の会場が保育園なので職員と保護者がスタッフということもあり、子どもの対応するときは子ども視点も大切にしています。その子どもたちを通して貴重な体験ができたと思ってくれます。スタッフが仕込み中、子どもたちをよくみてくれてとても助かりました。

たかねざわぼかぼか食堂 伊藤 智子さん

#### 編集後記

半年間のインターンは、学生にとっても受け入れた団体にとってもより良いものであったことが伺える。このインターンを通して、学生は、自身が関わった団体が向き合う社会課題に共に向き合っただろうし、その中で自分なりに考えて行動に移したこともあっただろう。それらはきっと自分の財産になる、糧になる経験に違いない。

受け入れてくださった4団体の皆様、インターンを企画・運営して下さっている事務局の皆様、そして助成金・補助金を出して下さっている「たかはら子ども未来基金」様に、感謝の意を表します。学生にとって、かけがえのない時間となりました。

どうか、また来年度も団体と学生の素敵な出会い、そして、社会に素敵な変化、明るい変化が少しでも生み出されることを願って。。。

12月号、1月号はこちらから



とちぎコミュニティ基金  
〒320-0027 栃木県宇都宮市埴田2-5-1 共生ビル3階 認定NPO法人とちぎ  
ボランティアネットワーク内  
TEL 028-622-0021 FAX 028-623-6036 メール info@tochicomi.org  
Facebook:とちぎコミュニティ基金 @tochicomi